

たった 60 日でセンター試験  
「世界史」  
で 100 点を取る方法

インテリジェンシア

<http://toudaigoukaku.com/>

こんにちは。インテリジェンシアの中西です。

これからご紹介するのは、東大受験にあたって、私が考え出した勉強方法のコツです。

## **勉強方法にはコツがあります。**

間違った方法で何時間勉強していても、大して効果は期待できません。ところが、世間の受験生を見ていると、**間違った勉強法で一生懸命勉強している人がたくさんいます。**

電車に乗っているときや街中で、労力をかけてあまり効果のない勉強をしている学生の様子を見ていると、本当に気の毒になってきます。なぜ、やみくもに勉強するのでしょうか。正しい方法で勉強すれば、もっと簡単に効果が上がるのに。

**間違った勉強法で5時間勉強してもあまり効果はありませんが、正しい勉強法であれば一日1～2時間の勉強でその効果が期待できます。**

しかも、大学受験では学習時間がどれだけあっても足りないような状況になります。間違った勉強法をしていては、何時間勉強しても足りないのではないのでしょうか。

特に、国立大学の受験というのは大変です。私は理系だったのですが、数学や物理、化学といった専攻科目以外にも、国語や社会（世界史）といった文系科目を学習しなければなりませんでした。

つまり、最低5科目（英語・数学・国語・理科・社会）を学習しなければならなかったわけです。

しかし、受験対策に本格的に取り組んだのは高校3年の夏に部活を引退してからでした。そのため、限られた時間（約半年）で成績を飛躍的にアップさせることが必要だったのです。

そこで考え出したのが、各教科における効率的な勉強法です。周りの人たちがやっているのと同じことをやっても、絶対に追いつくことができないのは目に見えてわかっていました。

なにしろ、高校3年の春ぐらいから、東大を目指すような学生は学習を開始していたからです。

その遅れを取り戻すためには、倍以上に学習することが必要でした。時間を倍にするとすると、睡眠時間を削らざるを得なくなります。

しかし、そんなことはしたくはありません。

そこで、試行錯誤しながら、質を高める工夫を考えました。そして考え出した勉強方法を半年間つづけたことで、現役で東大に合格することができたのです。

そこで考え出した勉強方法については、「[東大卒の親が知る、わが子を東大へ入れる方法](#)」に詳しく書いております。

さて、今回はその一部である、世界史の勉強方法についてご説明をさせていただきます。

東大を目指すにあたっての、第一関門であるセンター試験では、社会を一科目選択しなくてはなりません。

さらに、センター試験では最低でも800満点中650点は確保しておかないと、二次試験に進むのも危うい状況になってしまいます。

そうなる、社会は苦手だからといって、手を抜くわけにはいきません。  
社会の100点満点のうち少なくとも80点は確保しておきたいところです。

つまり、失点を20点以内に抑えなければならないのです。

しかし私の場合、世界史の学習を本格的に開始したのが、10月でした。それまではまったく勉強してなかったといっても間違いではありません。

そのため、**9月に受けたセンター試験模試での世界史の成績はなんとたったの21点**しかありませんでした。

学校の授業をうわの空で聞いていただけで受けたのですから、当然の結果といえるでしょう。

ところが、10月から勉強し始めて、**約2ヶ月後のセンター試験で、私はなんと「世界史」で96点**を取ることができました。

これは、世界史だけを2ヶ月勉強したわけではありません。英語や数学、物理、化学といった理系科目を中心に勉強しながらの成果です。

**私は一日に2時間ぐらいしか世界史を勉強しておりません。たったそれだけの時間で世界史をマスターしたことになります。**

では、具体的にはどうすればよいのでしょうか？

特別な教科書が必要？

予備校の優秀な講師のテキスト？

特別な参考書を使う？

**全て不要です。** 普段通り学校で使っている**教科書**と**補助教材**として使われているであろう「**世界史図録**」、それから**一問一答式の問題集**があれば十分です。

どうですか、普通に手に入るものですよ。

**受験生の多くが勘違いしているのが、優れた参考書に頼ろうとしていることなのです。**

確かに、内容がすばらしくてわかりやすい参考書が良いにこしたことはありません。しかし、人それぞれ好みがありますので、ある人にとっては使いやすくても、違う人から見れば使いにくいかもしれません。

皆が勧める参考書が、必ずしも良いとは限らないのです。

**本当に大切なのは、教科書と参考書をどう使うかです。** 使い方によって、普段使っている教科書が成績アップのための有効なツールになるのです。

教科書も使いこなせないのに、**参考書マニアになるのはやめましょう。**

よくあるのが、参考書をたくさん揃えている受験生です。買えば買うほど、勉強したつもりになるのでしょうか。

しかし、道具というのは使いこなせてこそ、意味があるのです。いくら高い道具を使っても、その価値を理解し、使いこなせなければ、全く価値はありません。これは、参考書についても言えることです。

もし、あなたの目の前に世界史の参考書がたくさん並んでいるのなら、その中から一つだけを選んでください。そして、他の参考書は目に触れないところにでもしまってください。

だって、目の前に参考書が並んでいたら、うんざりしてしまいますよね。

さて、これから教科書とその附属教材、そして一問一答式の問題集の使い方についてご説明します。

まずは、教科書を適当なところで開いて、10ページぐらいパラパラとめくってみてください。

すると、今開いているページは、もともと開けたページの時代から、おそらく50～100年ぐらいが過ぎているのではないのでしょうか？

つまり、たったの10ページほどに50～100年分の内容が詰まっているのです。

これを覚えるとなると、本当にぞっとします。しかし、覚えることができなければ、センター試験で高得点は取れません。

では、どうすれば効果的に覚えることができるのでしょうか？

その答というのが、教科書＋附属教材＋一問一答問題集なのです。

まず、教科書というのは、「歴史の目次が記載されている目次集だ」と思ってください。読んでいても、歴史的な出来事のトピックスしか書いてありません。

いわゆる目次だからこそ、たったの10ページで100年分も進んでしまうのです。

その目次の肉付けをするのが、附属教材である「世界史図表」です。

たとえば、「産業革命」について、世界史の教科書では、

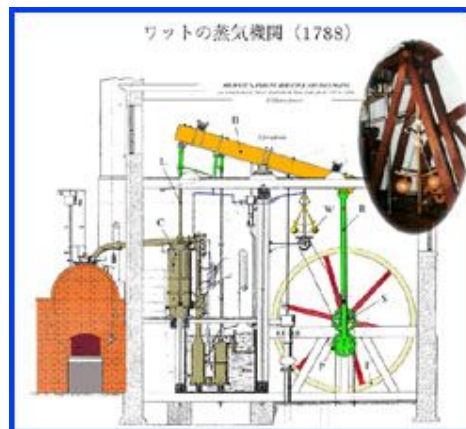
「これは、18世紀の後半にイギリスで始まった「産業・経済・社会上の大変革」のことを表す。この変革によって、工業生産の体制がマニファクチュア（＝工場制手工業）から工場制機械工業に変わった。これにより、工業生産において大量生産が可能になり、本格的な資本主義経済が成立することになった。」

と記載されています。

しかし、これでは何のこともさっぱりイメージできないのではないのでしょうか。

そこで、「世界史図表」というのが登場するのです。

例えば、ワットが開発した蒸気機関というものも、産業革命の時代に作られました。図表などでは、その絵が載っている場合があります。



これを見れば、産業革命がいかなるものであったのかが、一目りょう然です。これまで、個人が手作業でやっていたものが、この機械を使えば簡単に大量生産できそうです。

こんな大掛かりな機械があれば、手作業なんてとても追いつかないですね。だからこそ、産業革命といわれるぐらいの大きな出来事だったわけです。

しかも、大量に安く生産できるということは、自国内だけでなく、近隣諸国の産業にも影響を与えます。それに、社会構造の変化にも繋がってきます。

このように、ヴィジュアルを使うことによって、文字で書かれている教科書の内容を、より具体的なものとして理解していくのです。

さらに、文字で暗記すると大変なことでも、ヴィジュアルで見た物事というのは結構覚えているものです。

ほら、今朝読んだ新聞のことよりも、昨日の晩に見たドラマの内容の方がよく覚えていたりしませんか。それと同じことです。

視覚による情報のインプットというのは、非常に強力な暗記のためのツールなのです。

そこで、**お勧めの勉強法** は、

- ・ **まず教科書の1セクションを読む**
- ・ **読みながら、世界史図表を眺め、ヴィジュアルとして情報をインプット**

ということになります。大体1時間もあれば、1セクションを読むことができるのではないのでしょうか。

しかし、これではまだまだセンター試験対策にはなっていません。

そこで、一問一答式問題集の登場になるのです。

一問一答式問題集の良い点は、そのセクションにおける重要なキーワードを洩れなく含んでいる点です。

各セクションには「テストには必ず出る」であろうキーワードがあります。そのキーワードの内容を理解し、覚えているかどうかのチェックが、一問一答式問題集で出来るのです。

一問一答式問題集の全問に正解できるのなら、センター試験でほぼ100点が取れると思って間違いありません。

そこで、**お勧めの勉強法** は、

- ・ **教科書と図表で覚えた内容を、一問一答式問題集でチェック**
- ・ **解答できなかったところについては復習する**

です。これは1時間もあればできるはずです。つまり、都合2時間あれば、教科書、図表、問題集の3セットを使って、1セクションの内容をマスターすることができるのです。

これを繰り返していけば、2ヶ月もあれば、世界史の教科書を一通り終わらせることができるはずです。

終わらせたあとにでも、センター試験模試を解いてみてください。驚くぐらいに成績が上がっているはずです。

どうですか。あまりにも、簡単すぎてあっけなかったのではないのでしょうか。特に、図表を使って勉強することに戸惑いを感じているのではないのでしょうか。

しかし、勉強法というのはシンプルなのが最強なのです。

シンプルな勉強だと不安になってしまい、難しい課題を解くことに集中してはいないのでしょうか。

ところが、東大に合格する人ほどシンプルで効率的な勉強をしています。まずは簡単なところから基礎をコツコツ積み上げていくことこそが大切なのです。

東大卒の親というのは、それを知っています。だからこそ、子供に対して無理や無駄のない学習指導をすることができるのです。

では、ご参考までに60日で「世界史」をマスターするためのスケジュールを記載しておきます。

#### < 第一日目 >

始めが一番大切です。これからの60日間に備えて、しっかりと準備を整えましょう。

まずは、教材を揃えます。以下の3点セットです。

教科書（学校指定のもので構いません） ここでは三省堂版にて解説

補助教材（学校指定のもので構いません）

一問一答式問題集（市販の参考書）

そろえたら、一日どれぐらいの分量を勉強するのかを決めます。大体の教科書は180～200ページですので、一日3～4ページが最低限ですが、出来れば一日5ページ分ぐらいはやりましょう。

一日目は、教材を揃えるのと、どれぐらいの分量になるのかを把握するだけで結構です。2日目から本格的に学習を開始しましょう。

#### < 2日目 >

まず、「序章」である、（農耕と牧畜）・（都市文明の発展）を一日でやってしましましょう。ほんの5ページほどの分量です。まずは教科書を読んで全体像を頭にいれます。

そうしたら、今度は補助教材でビジュアル情報をインプットするのです。

そして、それを一問一答式問題集で確認しましょう。

< 3 ~ 7 日目 >

今回は「第一部：第一章」に取り組みます。

アジア、イスラム、ヨーロッパ地区の文明の発展について学ぶ部分です。

< 8 ~ 10 日目 >

「第一部：第2章」を学びます。

上記で学んだ各地の文化がどういう交流をもっていたのかを学習します。

< 11 ~ 15 日目 >

「第二部：第1章」を学びます。

国家が形成されて、文化も発達し、各地域の交流がより盛んになる時代です。

< 16 ~ 35 日目 >

「第二部：第2章」を学びます。

近代的国家の発展とともに、産業革命や海外進出など、現代に繋がる重要な歴史の部分です。

この部分がもっとも、内容が細かくて難しいかもしれません。

じっくりと時間をかけて取り組んでください。

< 35 ~ 45 日目 >

「第三部：第1章」を学びます。

いよいよ、後半戦です。第一次世界大戦、第二次世界大戦など、歴史の目盛りがこれまで10~20年単位だったのが数年単位になり、覚えることがどっと増えます。

< 46 ~ 50 日目 >

「第三部：第2章」を学びます。

ついに最後の部分です。しっかりと最後まで気を抜かずにがんばりましょう。

< 51 ~ 60 日目 >

これまで学んだことを、もう一度、一問一答式問題集の最初からやり直してみ、覚えているかどうかの確認をします。

もし、覚えていない部分があれば、教科書と附属教材を使って再確認しましょう。

そして、センター試験の過去問を解いてみてください。

きつとびっくりするぐらいの点数が取れているはず！！

ここまでは、世界史の勉強法についてご説明しましたが、それ以外の教科についても、勉強のコツというのがあります。

また、東大に合格するためには高校からでなく小学校の段階から取り組むのがベストです。

そこで、「[東大卒の親だけが知る、わが子を簡単に東大に入れる方法](#)」では、小・中・高の各段階に分けて、必要な勉強方法について記載しております。

なぜなら、小学校や中学の段階では、また違った勉強方法が効果的だからです。

勉強方法については、体験的に物事を覚えやすい時期である小学生の段階と、頭で考えて納得して身につけて行く時期である高校生の段階では、全く異なってきます。

詳しい学習内容や、東大に入るためにやっておきたいことについては、「[東大卒の親だけが知る、わが子を簡単に東大に入れる方法](#)」にて詳しく記載しておりますので、是非、私の運営するサイトをご覧ください。

<http://toudaigoukaku.com/>